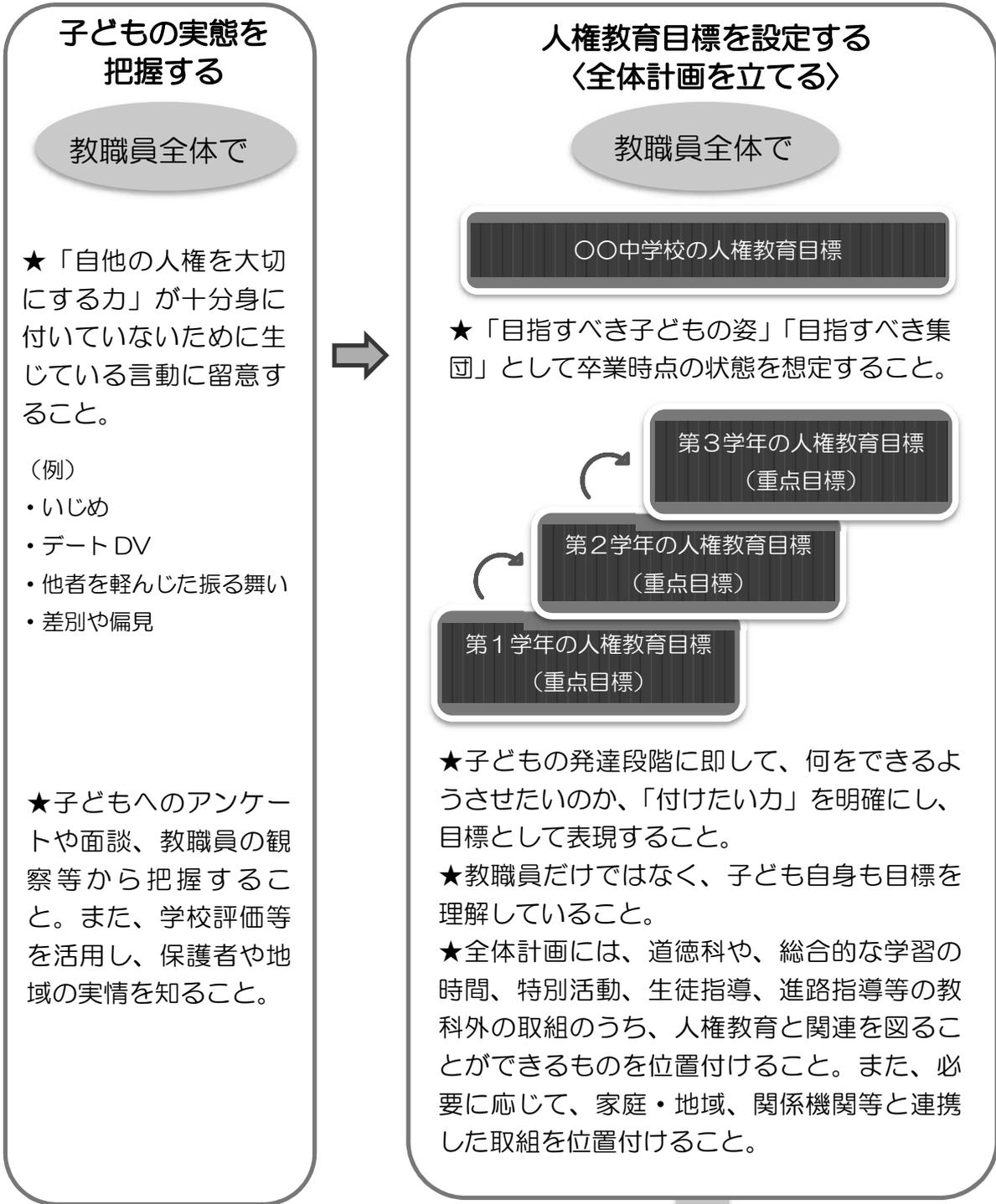


人権教育を進めるに当たって、子どもの現実の姿から離れた取組にならないよう、家庭や地域の実態も踏まえ、子どもの姿をしっかりと見据えておく必要があります。子どもの実態把握に始まり、子どもの変容の姿を見きわめ、次の取組につなげられるような人権教育を推進するには、次のような手順が考えられます。

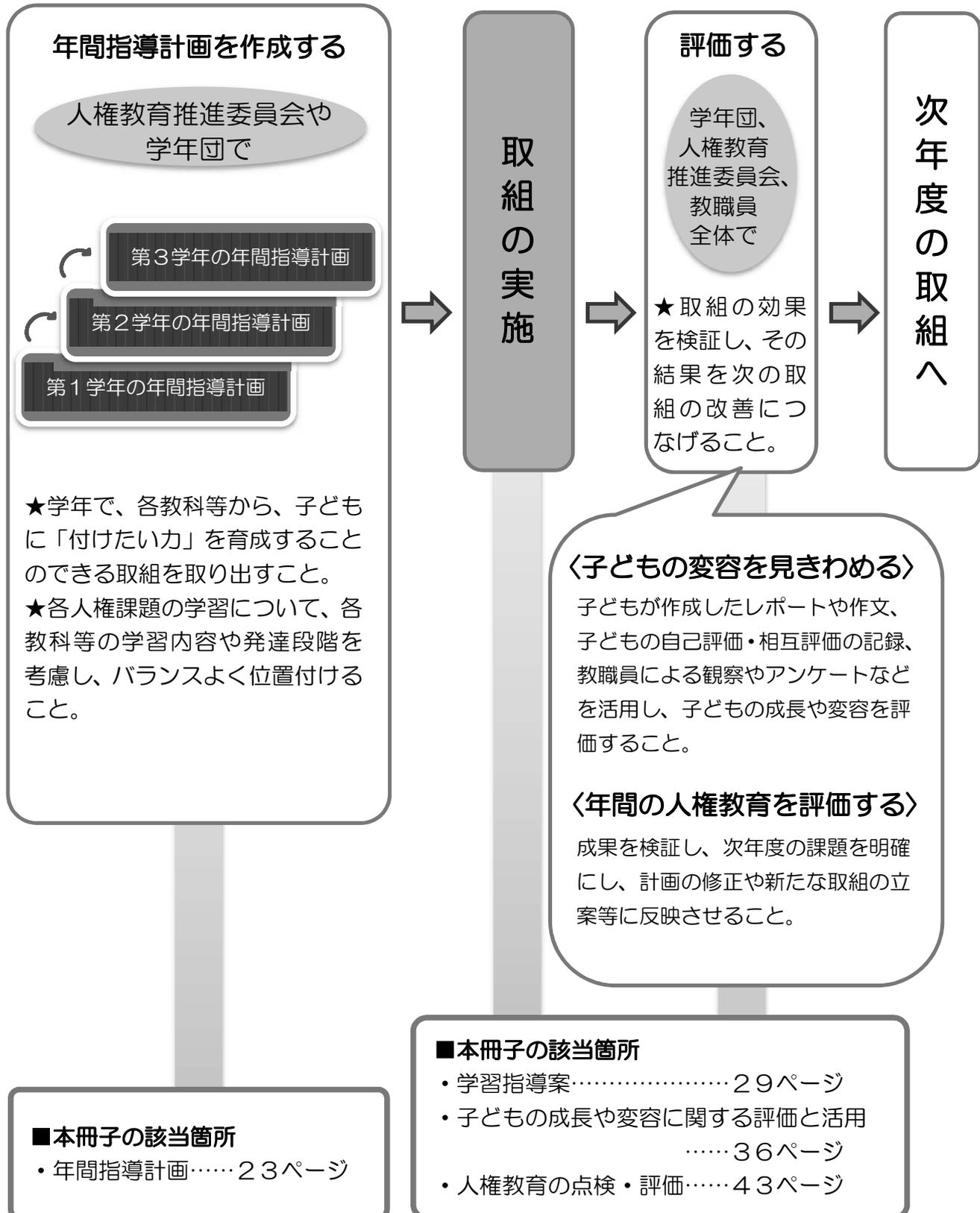


■本冊子の該当箇所

- ・人権教育目標の設定……………13ページ
- ・全体計画（全体構想図）…21ページ

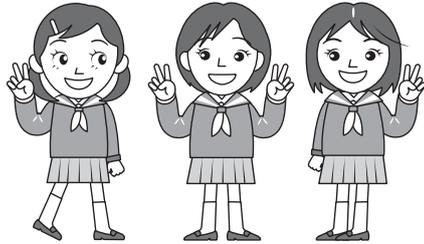
【人権を尊重する環境づくり】

人権教育においては、その教育内容や方法の在り方とともに、教育・学習の場そのものの在り方が極めて重要な意味を持ちます。子どもが、豊かな人間関係を通して、一人の人間として大切にされているという実感を持てるようにし、自他を尊重しようとする感覚や仲間としての連帯感、自尊感情を育てていくことができるよう集団づくり等に取り組むことも大切です。

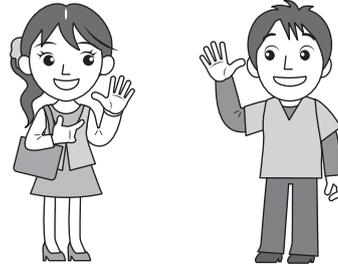


人権に関する知的理解を深めるとともに、人権感覚を育成することによって、自他の人権を守る実践力、行動力を育てることができます。どちらか一方だけでは、実践行動に結び付きにくいいため、両者をバランスよく育成することが大切です。

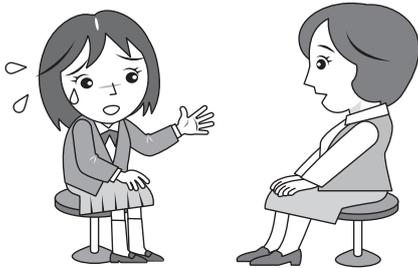
こんな子どもに育ってほしい！



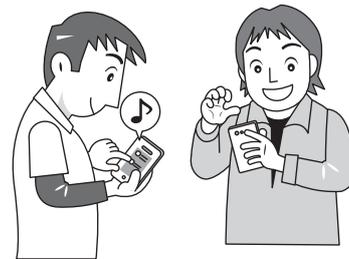
- 悪口を言ったり、仲間はずれにしたりしない。
- 相手を非難や攻撃しないで、自分の言い分を伝えることができる。



- 互いを尊重して、対等な関係をつくることができる。



- 嫌な思いをしたり、不当な扱いを受けたりしたときには、誰かに相談することができる。



- ルールを守り、自他の人権を尊重して、インターネット等を活用することができる。

人権感覚

具体的には、このような **価値・態度** や **技能** として捉えることができます。

- 自分も他の人も尊重しようとする。
- 多様性を受け入れ、肯定的に捉えようとする。
- 他の人の話をしっかりと聴き、自分の思いも適切な方法で伝えることができる。
- 他の人と対等で豊かな関係を築くことができる。 など

どうにかしたい。
でも、どうしたらいいの？



実践行動に結び付きにくい

5 人権教育目標の設定

1 各学校における人権教育目標の設定

指導等の在り方編16ページ

実践編7ページ

各学校においては、校長のリーダーシップの下、校内の運営委員会や職員会議等を通して全教職員の共通理解を図り設定します。

学校としての人権教育の目標を設定するに当たっては、様々な人権問題の解決に資する教育の大切さを十分に認識した上で、「人権が尊重される社会の実現」という未来志向的、建設的な目標となるよう、留意することが重要です。

同時に、こうした目標設定の取組を通じ、人権教育とは、人権に関する知的理解だけでなく、[自分の大切さとともに他の人の大切さを認めること]ができるような人権感覚の育成を目指すものであること、人権感覚の育成のためには、自尊感情を培うとともに、共感能力や想像力、人間関係調整力を育むことが求められること等について、教職員の共通理解を図っていく必要があります。

これらを踏まえつつ、各学校がこれまでの活動の中で取り組んできたことや、子どもの実態、地域の実情等も考慮し、目指すべき子どもの姿や集団の状態を具体的に想定することが大切です。

2 各学年ごとの目標

学校の人権教育の目標が決まったら、学年ごとの目標を設定します。子どもの発達段階に即して、目指す子どもの姿や集団を想定し、何をできるようにさせたいのか、「付けたい力」を明確にすることが大切です。学年ごとの目標に応じて、資質・能力の育成も段階的に進められることが重要です。

作成に当たっては、人権教育の担当者と各学年の教職員で話し合い、共通理解を図っておく必要があります。また、子どもにもわかりやすい表現を用い、子ども自身も目標について理解をしておくことが大切です。

- * 参考…… 〈資料〉発達段階に即した人権教育の指導方法（49ページ）
- 〈資料〉発達段階ごとに育てたい資質・能力例（51ページ）

〈コラム〉隠れたカリキュラム

子どもの人権感覚の育成には、体系的に整備された正規の教育課程と並び、いわゆる「隠れたカリキュラム」が重要であるとの指摘があります。「隠れたカリキュラム」とは、教育する側が意図する、しないに関わらず、学校生活を営む中で、子ども自らが学びとっていく全ての事柄を指すものであり、学校・学級の「隠れたカリキュラム」を構成するのは、それらの場の在り方であり、雰囲気といったものです。

例えば、「いじめ」を許さない態度を身に付けるためには、「いじめはよくない」という知的理解だけでは不十分です。実際に、「いじめ」を許さない雰囲気が浸透する学校・学級で生活することを通じて、子どもははじめて「いじめ」を許さない人権感覚を身に付けることができるのです。だからこそ、教職員一体となつての組織づくり、場の雰囲気づくりが重要です。

指導等の在り方編9ページ